

地歴科地理 B 学習指導案

実施日 平成16年12月16日（火） 第5校時
 実施学級 普通科2年4・5・6組(地理選択者)
 男子19名 女子18名 計37名
 教材 新詳地理B最新版(帝国書院)
 場所 第1講義室
 指導者 教諭 新村耕一

1 単元名 第 部 自然と生活

2 小単元 第2章 資源と産業

3 単元について

本単元では、第1次産業の分野と第2次産業の分野を人々の生活のかかわりの中でとらえようとするものである。日本の産業は、1960年代の高度経済成長、1970年代の二度のオイルショック、1980年代の円高ドル安、1990年代のバブル経済の崩壊など国内外の経済の影響を常に受け、私たちの生活空間は大きく変化してきた。そのような中で農業、林業、水産業、資源・エネルギー、工業の変遷は目覚ましいものがあると同時に非常に複雑化してきている。本単元では世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などを系統地理的にとらえ、世界の資源や産業を空間的な広がり留意して大観させる。

4 単元の目標

- (1) 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通に対する関心と課題意識を高めさせ、世界の資源、産業の多様性や地域性をとらえさせる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 世界の産業の中で、日本がどのようなかかわりをもっているかという視点を重視し、日本の産業構造の変化や日本人の食生活への影響について考えさせる。 (思考・判断)
- (3) 世界の資源、産業に関する資料や学習に役立つ情報をITを活用して提示し、資源・産業の分布図や地域区分図を作成させる。 (資料活用の技能・表現)
- (4) 世界の農業・水産業に関しては、自然環境との関連を考えさせながら、世界の農業区分・農業地域の分布・世界の主な漁場について大観させる。 (知識・理解)

5 単元の指導計画(全5時間)

単元名	主題名	時間	主な学習内容
第 部 自然と生活 第2章 資源と産業	世界の農業	1	自給的農業(遊牧, オアシス農業, 焼畑農業, アジア的稲作・アジア的畑作)について, それぞれの農業の気候的特色や農作物, 分布について理解する。
	世界の農業	1	商業的農業(混合農業, 酪農, 園芸農業, 地中海式農業, 企業的牧畜)について, それぞれの農業の特色や社会的な立地条件, 分布について理解する。
	現代の農産物の流通	1	企業的穀物農業, 企業的牧畜, プランテーション農業の特色や分布について理解するとともに, 農産物の流通を支配する巨大企業の影響力について考える。
	世界の中の日本の農業	1	日本の農業が国際的な比較において労働生産性が低いことや日本の工業製品の輸出が急増する一方で, 日本の農産物市場の開放要求が強くなったために食糧自給率は下がってきたことを理解する。
	世界の水産業	1 (45分)	水産業の種類や漁法, 好漁場の条件, 世界の主な漁場の特色について理解し, 日本が水産物の輸入大国であることを知り, 輸入先の国に及ぼす影響について理解を深める。

6 生徒の実態

2年理系の地理Bは本校の教育課程では週2単位であり、文系よりも1単位少ない。試験問題は同一の問題であるため、文系よりも要点を整理した授業を余儀なくされるが、真面目に取り組む生徒が多く、集中力がある。

7 本時の実際(5/5)

(1) 主題 世界の水産業

(2) 本時の目標

- ア 水産業の種類(漁業・養殖・栽培漁業)や漁法について映像を用いて視覚的にとらえさせ、水産業に対する興味・関心をもたせる。(関心・意欲・態度)
- イ ITを活用して、漁場としての条件や世界の漁場を主に自然条件の面からとらえさせ、水産業の変遷と現況について理解させる。(知識・理解)
- ウ 日本付近の海流や潮目について考え、資料や白地図を活用して世界の漁場における潮目の位置を確認し、発表させる。(資料活用の技能・表現)
- エ 日本が水産物の輸入大国であることを取り上げ、水産物がどこから輸入されているかを理解させるとともに、輸入先の国に及ぼす影響について考えさせる。(思考・判断)

(3) 本時の展開

段階	学習活動	学習内容と情報提供	時間	指導上の留意点
導入	出席確認 資料1・図表1を通して日本が水産物の輸入大国であることを理解し、弊害も引き起こしていることに気付く。 日本人は一人当たり年間平均何匹のエビを食べているかを考える。(70匹)	資料1 『世界の中の日本と私』 図1 日本に集まる水産物(最新地理図表P.87) 写真1 エビの加工工場(教科書P.81)	2分 8分	あらかじめ、朝の読書の時間に資料1を配付しておき、日本の水産業についての予備知識を与え、関心をもたせておく。日本人のエビ好きは世界一であることに触れ、輸入大国であることを印象付け、水産業全体に興味関心を持たせるようにする。
展開	漁業に関する映像を見ることによって水産業の種類(沿岸漁業・遠洋漁業)について理解する。 遠洋漁業が衰退の理由について既習事項を復習する。(200海里排他的経済水域、竹島、高級魚の輸送)	図2 日本の漁業種類の漁獲量と魚介類輸入量の推移(教科書P.81) 図3 世界の漁場と200海里水域(最新地理図表P.86) http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/p1sui1/p1gyo1/p1gs01/IPA-sui100.htm (沿岸漁業と遠洋漁業に関するホームページ)	10分	遠洋漁業の衰退について200海里体制、領土問題などすでに学習した内容について復習させ、水産業と深いかわりであることを理解させる。
展開	日本付近の海流を考えて白地図に描いてみる。潮目の意味を理解し、どこに潮目があるかを考える。 好漁場の条件として栄養塩類・湧昇流が必要であることを理解する。	漁場の条件・漁法 http://www.bunka.pref.iwate.jp/shizen/umi/data/kiso01.html (潮目・潮境に関するホームページ) http://www.hazama.co.jp/ashcrete/submarine/ (栄養塩類・大陸棚・湧昇流、人工海底山脈に関するホームページ)	13分	潮目・大陸棚・バンクを取り上げ、好漁場である理由を説明する。潮目の場所については生徒に日本付近の海流(千島海流・日本海流・対馬海流)を描かせ、発表させる。

段階	学習活動	学習内容と情報提供	時間	指導上の留意点
展開	様々な漁法について理解し、栽培漁業の重要性について考える。	図4 延縄漁，トロール漁，定置網漁，育てる漁業（栽培漁業）（最新地理図表P.86）		漁法によっては水産資源の乱獲につながる場合もあることを指摘する。
展開	好漁場として取り上げられた海域が潮目，バンク，湧昇流や大市場の存在等の条件を満たしていることを理解し，世界の好漁場の位置を大観する。 エルニーニョ現象に関するメカニズムを理解する。（ペルー海流・南東貿易風）	図5 漁獲高（最新地理図表P.86） 図3 世界の漁場と200海里水域（最新地理図表P.86） 北東大西洋漁場 北西大西洋漁場 北西太平洋漁場 北東太平洋漁場 南東太平洋漁場 http://www.data.kishou.go.jp/climate/el_nino/mikata/what_is_el_nino.html （エルニーニョ現象に関するホームページ） 写真2 かたくちいわし（最新地理図表P.86）	12分	展開の学習内容を指摘しながら，地図で位置を大観させる。それぞれの漁場については，出漁国を指摘し，出漁国の食生活にも触れる。 エルニーニョ現象については詳しく取り上げ，日本近海でもいわしの減少が続いていることに触れる。
まとめ	日本の水産業の現状を資料1を通して再認識し，水産資源の有効活用や保護などについて考える。	日本に集まる水産物（最新地理図表P.87） 資料1 『世界の中の日本と私』	5分	日本の水産業は社会環境の影響を常に受けており，日本が水産物を輸入している国において様々な問題について考えさせる。

(4) 評価

- ア 水産業の種類（漁業・養殖・栽培漁業）や漁法の映像を通して水産業に対する興味・関心をもつことができたか。（関心・意欲・態度）
- イ 漁場としての条件や世界の漁場を主に自然条件の面からとらえることができ，水産業の変遷と現況について理解することができたか。（知識・理解）
- ウ 日本付近の海流や潮目について考え，資料や白地図を活用して潮目の位置を確認し，発表することができたか。（資料活用の技能・表現）
- エ 日本が水産物の輸入大国であることや水産物がどこから輸入されているかを理解し，輸入先の国に及ぼす影響（問題点）について考えることができたか。（思考・判断）